

不安なことは、 組合の人に！

国労千葉地本運輸区統合分会 SOGA 班 新聞



特急関係 ぶれぶれの支社対応、 大丈夫か、この会社！

前代末間の提案修正

昨年末に発表されたダイヤ改「正」提案は、毎年のごとくではありませんが、提案ではなく決定事項として発表されています。そのため各自治体より猛烈なクレームが届き、今回は前代末間の修正案が出されるといふ非常に粗末な対応がくり返されるとい

う事態になりました。

一つ目は京葉線の快速に関するのですが、二つ目は「房総特急車両の全列車5両編成化」に関するもので、これも苦情を予想したのか、何と期限付きの9両編成化の変更を発表しました。

今後の会社の進むべき道も危ぶまれます。

まず最初に記しておきますが、こんな事態になったのも、会社が利用者や自治体の意見も聞く耳を持たない姿勢から端を発しています。が、内容はともかく、一度発表した物に対して、修正案を出すのは、混乱するばかりで、企業の姿勢として望みしゅありません。はっきりに言っても、こんなみっともない話もなく、会社の威厳とか

5両編成で十分！

「全車指定席で5両は無理」という声が、何処からか届いたのか分かりませんが、現場で働く私たちの見解は「最初の提案があったら5両で十分」ということであります。勿論、蓋を開けてみないことには断言は出

きませんが、「コロナ禍以降、乗車人員数は残念ながら戻っておらず、交通量調査を見ても分かる通り、全席数に対して殆どの列車が半分という状況が続いています。単純に計算すれば、現在10両でも5両で十分という気がします。更には、現在自由席特急券520円区間は、新制度の指定席化では、最大割引でも520円を超えてしまうため、その区間の利用者は離れていくのではないかと、私たちは予想し

ます（断言はしません）。9両編成にすることで、空席が出来た場合、予約もせずに飛び乗ってくる利用者も増えてくるわけで、会社の望む方向とも明らかに異なってくるのではないのでしょうか。この場合の対応は、車掌にとって本当に余計な仕事（車内発行の増加、苦情処理等）であります。しかも6月末までというのも、最初から施策に対して、自信なさげのぶれぶれで情けなくあります。

者や自治体の意見も聞く耳を持たない姿勢から端を発しています。が、内容はともかく、一度発表した物に対して、修正案を出すのは、混乱するばかりで、企業の姿勢として望みしゅありません。はっきりに言っても、こんなみっともない話もなく、会社の威厳とか

選挙結果報告

当区で22日に開票された過半数選挙は、労組側の健闘むなしく、残念ながら昨年到现在に続いて当選することは出来ませんでした。

班では、某日において他労組の若い組合員と総括を含む、意見交換を行ないました。詳細な内容は、この紙面では控えますが「何をどう訴えていけば良いのか」「そのためには、何をしていけば良いのか」が課題として挙げられたかと思えます。

まず一番の問題点は「社員代表とは何なのか」「選挙の重要性」に関して、興味を持たれておらず、更には「自分たちの働かされざま」といったことにも、それほどこだわりのない

ことから「選挙以前の話だよ」といった声も出ました。更なる奮闘と協力を約束し、次（統括センター後）に備えることとしました。

(社)	190
(組)	140
棄権	6
白票	3
無効	2
(郵送 21, メール 4)	

☆ 大体が組合を無視しているからこんな事態になるわけです。現場労働者、利用者の声をもっと真剣に聞け！